

長時間労働など意見交換

大学生の研究に協力

中田商事社長

【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）は10月26、27の両日、物流



を研究している大学生のヒアリング調査に協力した。中田社長は自社の取り組みを詳しく説明するとともに、長時間労働などの課題について、学生と意見交換

した。

中田商事を訪問したのは、神奈川県川大経済学部・齊藤実ゼミで物流を研究する3、4年生6人。中田氏が紹介した市内の

大学生と意見交換する中田社長（27日）

事業者2社を訪れ、業務内容の説明を受けた後、中田商事本社でヒアリングを行った。

中田氏は、時間給制など独自の取り組みについて述べ、「我が社も最初は零細企業だったが、いい会社を参考にし、何事も前向きに考えて、徐々にレベルを上げていった」と説明。学生らは長時間労働、人手確保、適正運賃収受といったトラック業界の抱える課題について質問し、中田氏は丁寧に答えた。

ゼミのリーダー、鳥海圭亮氏（4年生）は「物流は他の業種と違い、自分の目で現場を見ないと理解できない。それを再認識できた」と話した。大塚陽葉氏（同）も「中田氏の話聴き、必要なのは『現場力』だと痛

感した」と強調。

また、門口宜潤氏（同）は「長時間労働は荷主と事業者の関係性が問題だと思っていたが、経営者の考え方がこそ大事なのだ分かった」と述べた。

中田氏は「業界の諸課題まで、熱心に勉強していると感じた。彼らは、NS物流研究会（樋口恵一会長）で研究成果を発表する予定だが、今から楽しみにしている」と話した。（星野誠）